



大会宣言 (案)

成田支部

第41回定期大会
大会宣言を採択！安全第一で、安心して働ける
JR東日本グループを共に創り出そう！

9月4日、JR東労組成田支部は第41回定期大会を開催し、職場からの実践的な発言で大会を創り出し、職場と雇用を守り組織強化・拡大をめざす運動方針を満場一致で確認した。

物価高騰が私たちの生活に重くのしかかる中、2026年の春闘および夏季一時金のたたかいにおいて、会社は業績の上方修正にもかかわらず「大幅な上昇ではない」とし、低額回答にとどまった。さらに、2027年度以降の人件費を5,000億円以下に抑制する方針を示している。生活を守るためには、賃金は「たたかいとるもの」という原点に立ち返り、組合員・未加入者が一体となった問題意識の共有・展開と運動の強化が不可欠である。

職場環境に目を向ければ、会社のガバナンスやハラスメントに対する姿勢には依然として課題が残っている。「グループ全体のガバナンス改善と強化に向けた有識者委員会」による改善策が示されたものの、「被害者が加害者にされた！JR東日本武蔵小金井駅暴行事件」や関連する裁判闘争で明らかになった事態を見れば、現場が納得できる十分な自浄作用が働いているとは言い難い。JRバス関東成田空港支店では、課長による業務や私的時間でのパワハラにより、組合員が一時休職に追い込まれる事態が発生した。会社は交渉で無かったことにしたいという姿勢を見せたが、証拠を明らかにしていった結果、当該組合員の復職へ繋げることが出来た。労働組合として組合員を守るという原点に立った実践的なたたかいである。私たちは現場からの運動の実践とともに、裁判をたたかう仲間と連帯し、誰もが安心して働ける健全なJR東日本グループの実現を強く求めていく。

安全面においても、管内で連続する輸送障害に対する行政指導など、危惧すべき状況が続いている。そんな中、8月20日に東武日光線において作業員4名が亡くなるという極めて痛ましい重大事故が発生した。現在、運輸安全委員会が調査を行っているが、見張員の対応が関わる事故であることは明白である。JR東日本では事業本部が発足し、兼務発令もさらに増えているが、この事故を受けて職場のJTの徹底的な実施および適切な指導が行われているか、今一度見直さなければならない。東労組のチェック機能が極めて重要な局面にあることを意識し実践していく必要がある。深刻な要員不足やワンマン運転の拡大に対しても、現場からの検証運動を軸に「安全・健康・ゆとり」の実現に向けたたたかいを進めていく。

こうした職場の課題を解決するためには、過半数代表者選挙での勝利が重要である。成田支部では、代表自らが駅を回ってのポスター作成や、乗務員職場で組合員の写真を掲示した手作りのポスターを展開するなど、独自の工夫で職場の意思を固めてきた。一方で、佐倉乗務ベースの開票作業においては、立会人に開票プロセスや票数を伏せる一方で、立会いをしていない社友会には情報を共有するという、選挙の公平性を揺るがす事態が発生した。直ちに申1号で是正を申し入れたが、こうした不透明な対応を正し、民主的な職場代表を確立しなければならない。

現在、世界各地で続く紛争は、戦争という悲劇だけでなく、私たちの生活を脅かす物価高をもたらしている。憲法9条の意義と「抵抗とヒューマニズム」の精神を再確認し、平和を希求する運動を青年層と共に進めていく。

私たちが守るべきは、こうした日々の生活と仲間の笑顔である。8月20日、成田支部の主催で開催した千葉ビール園でのレクリエーションには、家族を含め30名が集った。職場の垣根を越え、家族と共に絆を深めたこの時間こそが、私たちの運動の原動力である。

成田支部は、この強固な団結を力に、若い世代へ確かな労働組合を引き継いでいく。東労組10,000名組織の実現に向け、「要求実現と組織拡大は両輪だ！」「会社に幻想を抱くな！」を合言葉に、さらなる組織拡大と強化へ向けて邁進する。

以上、宣言する。